

第11回「弁護士 中坊公平さんのこと」

バブル経済崩壊後の金融不況時、回収不能といわれた暴力団から貸金を回収した中坊氏は、正義派弁護士と呼ばれ数多くの実績を残しました。中坊氏は若いとき、赤ちゃんが飲んでいる粉ミルクの中にヒ素が混入され、多くの赤ちゃんが死亡したり後遺症が残った事件があり、彼は弁護団長として本事件を担当しました。その時の彼が受けた教訓を2つ紹介します。

1つは、被害者のお母さんが言った異口同音の言葉、「お乳の出ない私が子どもを産んだことが悪かった」、「何で子どものためにもっと高価な粉ミルクを飲ませなかったのか」と自分を責めた。人は、真に困ると自分を責めるということ。2つ目は、粉ミルクを飲んで知的障害になり、17歳で亡くなった男の子のお母さんに、何が一番悲しかったかと聞いたときの言葉、「息子は生涯3つの言葉しか言えませんでした。1つは『おかあ』、2つ目は『マンマ』、3つ目は『アホウ』でした。親として息子が世の中で生きていくのに2つの言葉だけは知ってもらいたいと、『おかあ』『マンマ』だけは教え込みました。しかし、私は自分の子どもを一度でも『アホウ』と言ったことはありませんでした。にもかかわらず『アホウ』という言葉が息子が言ったということは、世間の人から教え込んだからです。こんなに覚えの悪い子どもに『アホウ』を教え込むこの世間の冷たさが、私には一番悲しかった」と言ったこと……。思わず涙が出る話です。これからも声なき声にじっと耳を傾けていかなければいけないと思っております。